

別紙（事後評価書）

令和2年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

<p>通し 番号</p>	<p>2</p>	<p>事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名： 公益財団法人せたがや文化財団 施設名： 世田谷文化生活情報センター （世田谷パブリックシアター）</p>
<p>助成対象活動に関する評価 （妥当性） 当該劇場は、世田谷区第3期文化・芸術振興計画の将来像である「心潤う、文化・芸術のまち～文化・芸術に親しみ、魅力を発信する」の実現に向け、計画の4つの視点に基づき、当該劇場の5つのミッションが掲げられており、世田谷区の文化政策を牽引する重要な役割を担っている。また、5つのミッションを具現化するために、文化芸術をつくる「公演事業」、文化芸術を広める「普及啓発事業」、文化芸術を育てる「人材養成事業」の3つのビジョンを設定し事業展開を図っている。</p> <p>令和2年度は、大型主催事業4作品のうち、3作品において、我が国の代表的な演劇賞を個人賞も含めて獲得しており、秀逸な作品を世に送り出していることが認められた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響がありつつも、挫折や後退を選択せず、区民との関係性を最優先に考えて行動していたことや普及啓発事業において特製DVDを制作することなど、苦難の中にあっても区民への優しさや思いやりを持った文化環境の創出に創意工夫が活かされていた。感染症による事業への甚大な影響を除けば、掲げられたミッション・ビジョンは概ね達成できている。</p> <p>以上のことから、事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通り、事業が推進されたことが認められた。</p> <p>（有効性） 劇場空間を活かし劇作家の世界観を自在に表した小山ゆうな演出「チック」の再演、同時代性を重視し古典作品の再評価に挑んだ森新太郎演出「The Silver Tassie 銀杯」「メアリ・スチュアート」、手話通訳を創作に取り入れ、勇気と希望に満ちた明るい未来を想起させた「コンドルズ」の新作公演、インクルーシブシアターの実績を持つ「ストップギャップ」の海外舞踊招へい公演など、オリジナリティあふれる舞台や再演可能となるレパートリー作品の拡充についてアウトカムの発現が認められた。</p> <p>大型主催公演及び国際交流事業の作品数については目標を達成していたものの、森新太郎演出作品及び海外舞踊招へい公演は目標とした平均入場率を下回る実績も認められており、観客増加に課題を残した。</p> <p>平成31年度こどものためのWS「夏休みワークショップ」は目標を若干下回ったものの、ほぼ全ての事業について目標を上回る好実績であった。各事業が地域に根付き安定的な事業推進が計られ、地域住民に劇場の魅力を伝えることや地域交流・地域理解を促進することに成功しており、アウトカムの発現が認められた。一方、事業が安定し地域に定着していることから、無関心層の開発や新規参加者の掘り起こしに、より一層の努力が望まれる。</p> <p>年間延べ500人の参加者及び平均入場率は、当初の目標を大幅に上回っている。特に、「シアタートラム ネクスト・ジェネレーション」では、次代を担う実演家に対して、創造</p>		

別紙（事後評価書）

面、技術面、制作面での細かいサポート体制が行き届いており、参加者数及び入場者率共に目標値を上回る実績を残した。若手登竜門としての本事業の取組により、支援芸術団体の今後の精力的な活動に期待が持てた。

令和2年度では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、公演事業において年間5-6作品及び国際交流公演年間2作品以上という舞台制作の目標設定は、大型主催公演4作品のうち1作品及び渡航制限がかかった国際交流公演のすべてが中止となり、アウトカムの発現には至らなかった。

平均入場者率75%と設定した目標は、77.6%の結果となり、アウトカムの発現が認められた。特に、公演期間を延長した「森新太郎演出作品」では、貸館事業のキャンセル分の劇場活用で機転を利かし、当初の目標値を大幅に超える結果となった。

普及啓発事業では、事業の縮小、参加者の激減を伴ったが、「夏休みワークショップ」では、目標の270人を大幅に超える527人の参加者が認められた。また、感染症リスクを回避するためのノウハウを広く共有するなど、実績や知見を活かした創意工夫が認められた。

以上のことから、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が及ぼされた事業以外では、概ねアウトカムの発現が認められた。

（効率性）

事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められた。

また、事業費については概ね適切であったと認められたものの、一部の事業において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離があった。実効性のある予算積算と適切な予算管理に努めてほしい。

（創造性）

平成30年度から演出家森新太郎を2年連続で起用し、新訳や戯曲の新解釈の取組により古典戯曲を現代に蘇らせた。埋もれた戯曲を再評価し、同時代性を意識した総合的な演出が奏功した。平成31年度における戯曲リーディングでは、上演台本を手掛ける翻訳家と芸術監督が、シェイクスピア戯曲の中でも上演回数の少ない「アテネのタイモン」を題材に、新作狂言の創作プロセスを公開し好評を得た。実験的な取組であったものの、稀少な戯曲選定やシェイクスピア台詞の狂言台本への変換など、企画の構想に独創性が認められた。

また、劇場事業のアクセシビリティの強化を目指し、「チック」「コンドルズ新作公演」において、手話通訳者も出演者の一人として創作したことは、目標に掲げた「演劇的手法を生かしたバリアフリー上演の可能性」に独創性が認められた。

地域住民に支持が高い「地域の物語」公演は、平成30年度から2年連続でシンガポールとの国際共同を実施することで、両国に大きな刺激を与えた。特に平成31年度においては、世田谷区に居住する外国人の参加者を積極的に募り、「日本対外国」という二項対立的な構図を打破し、当該劇場が多文化共生型のコミュニティーシアターとしての存在を再提示した。普及啓発事業の枠組では珍しい共同制作は、海外とのネットワークの構築に成功しており、新規性及び先導性が認められた。

森新太郎演出「The Silver Tassie 銀杯」における演技で横田栄司が第26回読売演劇大賞 優秀男優賞を受賞し、栗山民也演出「チャイメリカ」にて、舞台照明家の服部基が

別紙（事後評価書）

第 27 回読売演劇大賞 最優秀スタッフ賞を受賞した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大という困難な状況下において、栗山民也演出「殺意(ストリップショウ)」を主演した鈴木杏が第 55 回紀伊國屋演劇賞 個人賞、第 28 回読売演劇大賞 大賞・最優秀女優賞、第 71 回芸術選奨文部科学大臣賞 新人賞(演劇部門)を受賞した。また、森新太郎演出「エレファント・マン」では、主演した小瀧望が第 28 回読売演劇大賞 杉村春子賞・優秀男優賞を受賞した。

加えて、瀬戸山美咲演出「現代能楽集Ⅹ『幸福論』～能「道成寺」「隅田川」より」では、第 28 回読売演劇大賞 選考委員特別賞と共に、照明プランナーの齊藤茂男が最優秀スタッフ賞、瀬戸山美咲が優秀演出家賞に相次いで輝き、公演事業での奮闘が目立った。

特に、野村萬斎芸術監督監修による「現代能楽集」における瀬戸山美咲の構造的かつ斬新な作品解釈と演出力は、俳優の潜在的な魅力を引き出しつつ、能楽戯曲を現代に蘇らせた。独創性及び先導性が認められた。

以上のことから、本事業を通じて国内における当該劇場の評価の向上が認められた。

一方、森新太郎演出作品における作品選定に遅延が生じ、令和元年度の要望書における「作品未定」と併せて、2 年連続で事業計画の決定過程に課題が認められており、改善に努めてほしい。

(持続性)

平成 29 年度に策定した「世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針」「公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画」(以下、人材活用計画という)に基づき、組織体制の再構築と新人事制度の実地が持続的に展開されている。具体的には、職員の内部登用、総合職員の配置、専門業務型裁量労働制の導入、専門職員の主任昇任、勤務シフトの細分化による超過勤務時間の縮減など、職場環境の改善につながっている。特に各課横断的な調整業務を行う人材の配置や上席者の構成員による「人事調整会議」は、特筆に値する人的資源管理体制であり、平成 30 年度から 2 か年の間に、常勤職員が 7 名増員されていることは職員の雇用安定に全力で取り組んだ結果として大いに評価できる。

外部資金の獲得は平均 180 万円強を調達し、友の会会員数は平均 5,600 人強を保持している。演目によって会員数の増減は認められたものの、当該劇場の支援者は一定程度確保できていると認められた。

再演可能なレパートリー作品の全国展開を目途としたツアー公演では、神奈川県、滋賀県、兵庫県等の公立劇場との連携により、平成 30 年度 55 回、平成 31 年度 28 回と精力的な活動が認められた。新作公演の鑑賞機会が少ない地域にツアー公演を行うことで、地域文化の発展にも貢献しており、当該劇場の人脈ネットワークや専門的ノウハウが十二分に活用されていることが認められた。

令和 2 年度については、平成 29 年度に策定された人材活用計画の進行が概ね順調で、職員の意欲の向上につながっていることがうかがえる。しかしながら、先駆的な役割を果たしてきた当該劇場では、無期雇用職員の確保が未だ不十分である。当該劇場の上席管理職及び文化生活情報センター幹部会は、より一層の労働環境の整備と充実に努めてほしい。

資金調達については苦戦を強いられている状況であるが、小口寄附の拡充や新しい友の会制度のあり方など、困難な状況を悲観的に捉えず、前進の一步として捉えていることを評価する。また、PDCA サイクルを念頭に、旧態依然の劇場運営を見直し、改善努力を怠ら

別紙（事後評価書）

ない姿勢は評価に値する。

以上のことから、今後もアウトカムの発現が持続的に定着することが期待される。

（総 評）

多様な要望に応えられる自由度の高い2つの劇場空間を、演目の特徴やアーティストの個性によって使い分けることが可能な劇場の強みを活かし、質の高い多彩な公演活動を提供していることは評価できる。

一部の大型主催公演や普及啓発事業の観客増加にやや伸び悩みが見受けられるものの、ほぼ目標値に達しており、観客層の拡充が認められた。

国内外の芸術団体やアーティストを受入れ、独創的かつ新規性のある公演を実施しており、我が国の舞台芸術の水準向上に努めている。

「地域」「行政」「他劇場」「海外」とのつながりを重視しつつ、当該劇場がコミュニティの核となり地域の活性化に寄与している。近年は、劇場のバリアフリー化や子供の社会課題の解決にも力を入れており、総体的にプログラムが充実している。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症が拡大する極限状況にありながら、対象事業において数々の演劇賞を受賞したことは、劇場職員、出演者及び関係スタッフの団結力の賜物であり、開館から養われてきた高度な専門性が発揮された。

また、芸術家・スタッフの活躍の場を維持すると同時に、徹底した感染症予防対策を講じ、芸術性の追及を諦めなかった攻めの事業展開を評価する。

一方、職員の無期雇用者のさらなる増強、多様な資金源の確保、劇場支持者の拡充など、劇場の基盤整備に課題が残った。

以上のことから、我が国を代表する公立劇場の先駆的存在として、創意工夫を凝らした戦略的な事業計画を実行していたと概ね認められた。

別紙（事後評価書）

【新型コロナや台風等の影響を受けたもの】

H31

- 事業番号 9「海外招聘ダンス公演」(公演中止)
- 事業番号 15「地域の物語」(一部中止)
- 事業番号 17「学校のためのWS『ワークショップ巡回団』」(一部中止)

R2

- 事業番号1「フリーステージ」(公演中止)
- 事業番号2「移動劇場 @ホーム公演」(公演中止)
- 事業番号3「デフ・ウエスト・シアター」(公演中止)
- 事業番号4「白井晃演出作品『ある馬の物語』」(公演中止)
- 事業番号5「栗山民也演出作品『殺意(ストリップショー)』」(客席数減)
- 事業番号6「せたがやこどもプロジェクト 子どもとおとなのための◎読み聞かせ『お話の森』」(日程変更他)
- 事業番号7「せたがやこどもプロジェクト 海外招聘サーカス『悟空』」(公演中止)
- 事業番号8「せたがやこどもプロジェクト特別編 新寄席企画」(日程変更、一部中止)
- 事業番号9「せたがやこどもプロジェクト『Jazz for Kids』」(公演中止)
- 事業番号10「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」(会場変更)
- 事業番号11「世田谷アートタウン 海外招聘公演」(内容変更・オンライン開催)
- 事業番号12「森新太郎演出作品」(内容変更・地方公演中止)
- 事業番号13「シアターラム ネクスト・ジェネレーション」(日程変更)
- 事業番号14「現代能楽集X 『幸福論』～能「道成寺」「隅田川」より」(内容変更)
- 事業番号15「Technical Theatre Training Program 2020 舞台技術講座」(会場変更)
- 事業番号16「海外招聘ダンス公演」(公演中止)
- 事業番号17「コミュニティプログラム『地域の物語』」(回数変更)
- 事業番号18「こどものためのWS『世田谷パブリックシアター演劇部』『夏休みワークショップ』」(日程変更)
- 事業番号19「観客育成プログラム『学校のためのWS『ワークショップ巡回団』」(日程変更)
- 事業番号20「観客育成プログラム『舞台芸術のクリエイティブ』」(公演中止)